

復活節第6主日 5月22日 分かち合い

ヨハネ 14-27

復活節も後半、来週は主の昇天、そして、その次の週は聖霊降臨の主日を迎えます。福音は先週に続いて、ヨハネが記す最後の晩餐での説教が読まれました。

いよいよ弟子たちと別れ、この世から父のもとに帰ろうとするイエスは、弟子たちと、イエスに従うキリスト者皆に残そうとするものについて語ります。イエスは、すでにたくさんの言葉を弟子たちに、また、人々に語られました。その言葉一つ一つがイエスの残される思い—遺言です。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る」。そして、「わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む」と。何と慰め深い言葉でしょう。

しかし、イエスが残されるものは、それだけではありません。少し前に語られた言葉です、「父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなた方と一緒にいるようにしてくださる」と。弁護者とは、人の味方となって、代わりに語ってくれる人のことです。イエスを送ると言われる弁護者は、まさに、弟子たち、わたしたちにとって、頼りになり、力になる聖霊のことです。そして、先ほど聞かれたように、「弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」のです。

しかし、イエスが残してゆかれるものに、もう一つ大事なものがあります。それは、平和です。「わたしは平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える」と。今、世界中の人が望んでいる平和、それをイエスが与えるというのです。しかし、イエスが与える平和は人間が、武力で、あるいは、政治的な駆け引きで作り上げようとする平和ではありません。「わたしは、これを、世が与えるように与えるのではない」と断っておられます。イエスが与えようとする平和は、神の恵みとしての平和、神が与えようとする賜物をいただくこととする心があって、はじめて現実のものとなる平和です。

イエスが与えると約束される賜物—み言葉、聖霊、そして、平和—その中心になるのは聖霊です。間もなく聖霊降臨の主日をむかえます。これは、まさに、復活された主イエスが、弟子たちの上に神の霊を注がれたことを記念する日です。あの弱く、鈍く、的外れなことを口走っていた使徒たちを、別人のような、力強い宣教師としたのは聖霊によるものです。

聖霊は、イエスの言葉、聖書に書き記された言葉を、死んだ文字ではなく、生きた、人を生かす言葉とする力をもっています。言葉の意味を解き明かすだけでなく、それを実行し、生きる力、愛する力を与えるのが聖霊です。イエスが与えると約束された真の平和が、人々の心に芽生え、人と人を融和させ、互いに受け入れ合うことを可能にするのは聖霊です。

どうか、聖霊の力が人々の心に働き、少しでも、主が望まれる真の平和に近づくことができるよう祈りましょう。

今日、復活節第六主日は、「世界広報の日」に定められています。今年は第56回目の広報の日とあります。第二バチカン公会議で、『典礼憲章』について、二番目に採択されたのが『広報メディアに関する教令』の中で、こうした日を制定することが提唱されたことに、今回はじめて気づきました。1966年、という、そんな時に、すでに教会の広報に対する関心が強かったということにあらためて驚かされます。

昨年、フランシスコ教皇のメッセージのテーマは、「来て、見なさい」でしたが、今年のテーマは「心の耳で聴く」です。教皇は言われます、「神は、語ることによって人間をご自分の似姿として

造り、聴くことによって人間をご自分の対話の相手として認めます」と。神は、語るだけでなく、人間の声、叫び、時には言葉にもならない呻きを聞いておられるのです。「広報、メディア」の問題で、こうした点に触れられることは、一種の驚きです。しかし、今の時代、人は神のことばどころか、「目の前にいる人に耳を傾けること、向き合おうとする他者に誠実に、信頼をもって、正直に心を開いて耳を傾けること」さえ、難しくなっているのではないのでしょうか。教皇は、話している相手、聞いている内容、聞き方に注意して聞くことを強調した上で、聖アウグスチヌスの言葉を引用して、「心で聴くこと」、つまり、肉体的な感覚ではなく、「霊的に心で受け取る」ことを勧めます。さらに、プロテスタント神学者ディートリッヒ・ボンヘファーの言葉、「兄弟に耳を傾けることのできない人は、いずれ、神に耳を傾けることもできなくなる」を紹介し、「互いに耳を傾け合う」ことが、もっとも尊く豊かな贈り物、他者に対する第一の奉仕の業であることを思い起させます。

こうした機会に、情報機器の発達により、瞬時にして世界の情報を得ることができる恵みに感謝するとともに、具体的な人々とのかかわりが、真に「心で聴く」ものになっているか、振り返る時といたしましょう。(S.T.)